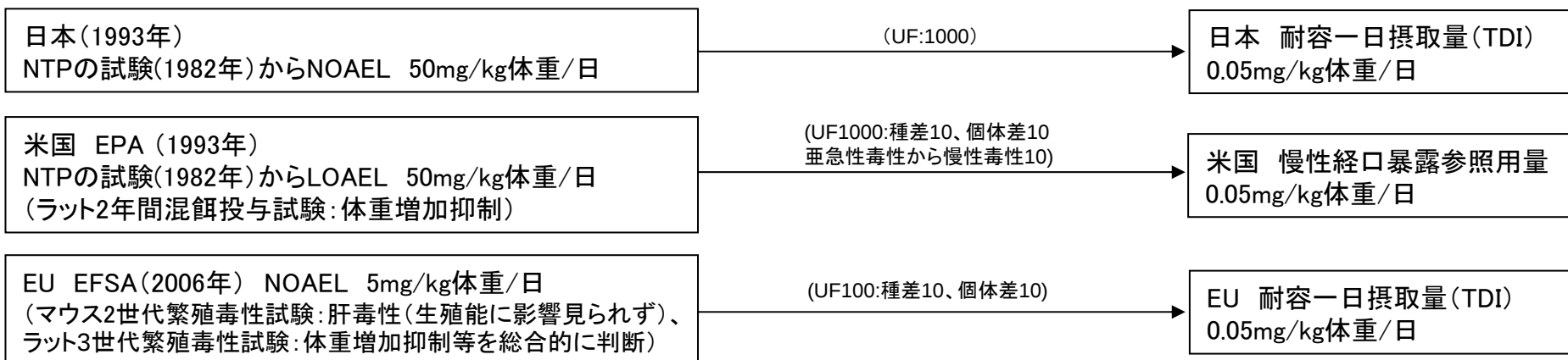


ビスフェノールAの評価状況(概要)



(低用量)

子宮比重量増加 経口0.025mg/kg体重/日(マウス)
精子産生数低下 経口0.02mg/kg体重/日(マウス)
行動異常 経口10 μ g/kg体重/日(マウス)
思春期早発 経口2.4 μ g/kg体重/日(マウス)
⋮
性周期異常 経口0.5 μ g/kg体重/日 周産期母へ投与 児に発現(ラット)

NTPドラフトレポートでの見解(2008年4月)

現在のヒト暴露レベルでは、胎児、乳幼児、子供の神経や行動等への影響に幾分かの懸念がある。
また、胎児及び乳幼児、子供の前立腺や乳腺への影響や女児の思春期早発という点で幾分かの懸念がある。
低用量(5mg/kg体重/日以下)での有害影響は一部の動物実験に限られるのでさらなる調査研究が必要だが、動物でみられた影響はヒトと同じくらいの暴露レベルで起きているため、ビスフェノールAがヒトの発達に影響を与えるかもしれないという可能性は無視できない。

EFSAのAFC パネル(食品添加物・香料・加工助剤及び食品と接触する物質に関する科学パネル)見解(2008年7月)
2006年の「0.05mg/kg体重/日は胎児や乳児を含む消費者に対して十分な安全域を確保している」
の評価に変わりない。

FDAの見解(ドラフト)(2008年8月)

げっ歯類の2つの多世代試験により、全身毒性でのNOAELを5 mg/kg体重/日とした。
一方、「前立腺と発達神経及び行動毒性のような注目されたエンドポイントについて検討したデータは、NOAELを変更する根拠とするには不十分である。」とした。